

## 写真人とその本 5 / 佐和九郎

日本カメラ博物館 JCII ライブラリー  
学芸員 宮崎真二

佐和九郎（1883-1961）は、電気関連エンジニア兼実業家の黒澤志澄（本名）として活躍する一方で、趣味として写真をはじめ、1921年には東京・銀座に写真店の「日の丸商社」を開きました。同年創刊の写真雑誌『カメラ』創刊号には「レンズの絞り方と焦点の付け處」を寄稿しています。

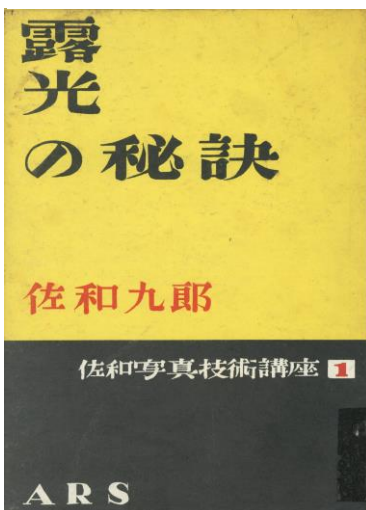
関東大震災をきっかけとして写真技術研究活動に専念し、『カメラ』には1925年頃から毎号のように寄稿して同誌の技術的記事をリードしました。1927年には「黒澤研究所」を設立して写真機材と感光材料の技術理論展開や、撮影、現像方法などについての研究著述活動を本格化させるとともに、1929年から刊行された『アルス写真大講座』の第5巻「現像及定着法一般」、第6巻「密着及引伸印画法」などを担当しました。



『密着と引伸』

同年に単行本として『整色写真術』（日本写真出版社）を、翌年には『露出の秘訣』（アルス）を著しました。後者には露出決定に関連する要素各種を独自の理論により係数化して、合計値からシャッター速度を決める「係数露出表」を掲載しました。この表を基にした「佐和式露出計算尺」が、1933年にアルスから発売されました。『カメラ』の同年3月号では「佐和式露出計算尺に就て」として詳細な解説を行っています。そのほかにも『整色写真の研究』（アルス・1932年）、『密着と引伸』（同・1933年）を著しました。

また1935年から刊行された『アルス最新写真大講座』では、第3巻「撮影の実際」を担当し、1936年から刊行された『アマチュア写真講座』では、全10巻を単独で執筆しました。このほか『アサヒカメラ』でも、1931年から1941年にかけて技術的記事を中心に執筆するなど、精力的な著述活動を続けました。



『佐和写真技術講座1 露光の秘訣』

太平洋戦争中も「ある研究を委嘱され」（『カメラ』1946年6.7月合併号より）東京都内にとどまりましたが、空襲でカメラと資料の大半を失い「現在の環境と情勢では、なつかしい写真界に、訣別をしなくてはならないかも知れない」（同）と茫然自失状態であったものの、ほどなく研究著述活動を再開しました。

1951年にはフィルム感度表記などを改訂した「佐和式露出計算尺」を再発売するとともに、1953年から56年にかけて自説の集大成ともいえるべき『佐和写真技術講座』全6巻をアルスから刊行しました。また『アサヒカメラ』1958年12月号の「写真商売うらおもて 元老指導者座談会」では、同誌1935年8月号に掲載された「ライカとコンタックスとどちらがよいか？」についての顛末など、長年の写真術研究、著述活動を通じた興味深いエピソードについて語っています。